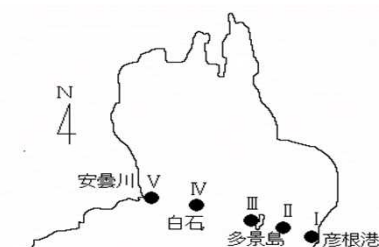


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和6年7月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和6年7月22日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場池先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

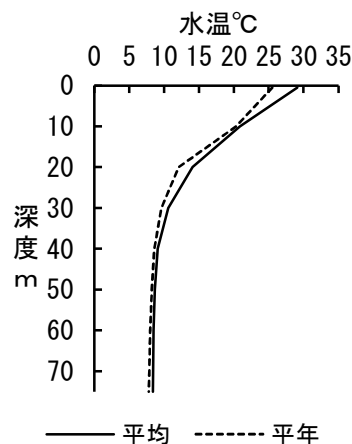
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2014年～2023年(平成26年～令和5年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 7月平均値 6.3m 平年値 5.1m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	29.1	25.5	+3.6
10	20.9	20.3	+0.6
20	14.1	12.1	+2.0
30	10.6	9.6	+1.0
40	9.1	8.6	+0.5
50	8.7	8.2	+0.5
60	8.5	8.0	+0.5
75	8.4	7.8	+0.6



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
6月下旬	23.3	22.3	+1.0
7月上旬	25.6	23.9	+1.7
7月中旬	26.8	25.2	+1.6

4. プラントン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	12.1	14.7	-2.6
10~20	6.5	5.4	+1.1
20~40	1.7	1.9	-0.2
40~75	0.8	0.6	+0.2

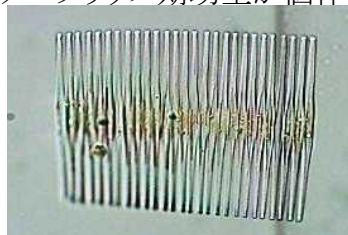
(プラントンネットNXX14使用)

5. 表層のプラントン優占種

○プラントンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プラントンは地点Iと地点IV、動物プラントンは全地点)

植物プラントンについては、両地点とも細胞数では*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が最も多く認められた。

動物プラントンについては、地点I、IIではカイアシ類のコペポデイド期幼生が、地点IIIではカイアシ類のコペポデイド期幼生と*Daphnia galeata*(カブトミジンコ)が、地点IVとVではカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



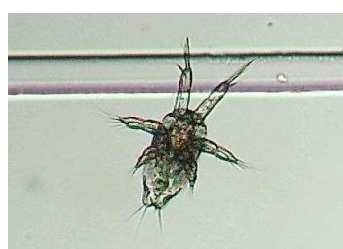
Fragilaria crotonensis



コペポデイド期幼生



Daphnia galeata



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	7月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.6	112.3	8.9	109.7	-0.3	(+2.6)
10	8.9	99.9	9.5	106.7	-0.6	(-6.8)
20	8.1	77.6	8.7	82.2	-0.6	(-4.6)
30	9.4	84.2	9.5	84.4	-0.1	(-0.2)
75	5.2	44.4	6.9	58.2	-1.7	(-13.8)